

随泉寺寺報

2003 年 9 月号 第 3 9 7 号

082-892-0217

浄土真宗本願寺派 高峯山随泉寺

秋季彼岸会法座

講師 浄満寺住職 鳴谷慈亘師

講題 「念仏申さば仏となる」

ごぞ見てし秋の月夜は照らせども

相見し妹はいや年さかる (柿本人麻呂・万葉集 211・)

妻を亡くした人麻呂がたくさん作った中の一首

「去年と同じ月夜だが、寝所で共に見た君とはどどん年が離れてゆく」在原業平の「月やあらぬ春や昔の春ならぬ我が身ひとつはもとの身にして」と相通ずる歌です。季節が変わるたびに、去年は一緒に見た花だったのに、去年は一緒に眺めた月だったのにと、寂しい思いをしておられる人も多いと思います。

人間は一人では生きて行けません。いろんな人と出会い、助け合ったり、ケンカしてりして生きていきます。しかし、出会ったものは必ず別れていきます。ともに生きた時間が長ければ長いほど、心を通わせた出会いの深さが深いほど、別れの辛さも深いのでしょうか。季節が変わるほどに、去年は、あの時はと、ともに過ごした時間を思い出し、自分ひとりを取り残されたような寂寥感におそわれるものかもしれません。だからこそ、その悲しむ私を抱きしめ、抱き摺って下さるお慈悲のある事が嬉しいのです。その流す涙の中から、また会えるせかいを俱会一処と歡べるのです。

9月の法座予定

9月 2日午後6時より...本部役員会

9月 14日昼席午前10時より...秋季彼岸会法座

9月 14日夜席午後7時半より...出張法座 東長者原 集会所

9月 15日朝席午前10時より...主婦の集い

9月 15日昼席午後1時より...秋季彼岸会法座

9月 23日午後7時半より...灯茶会

第3回随泉寺灯茶会

今年も中秋の名月がやってきます。今年の中秋の名月は9月11日です。(旧暦の八月十五日)「八月十五日」と書いて「なかあき」と読む名字の方がいらっしゃるようですが「なかあき=中秋」のことで昔から八月十五日の月を「中秋の名月」と呼んできました。

去年は9月の23日のお彼岸の中日が中秋の名月でした。ちょうどその日に灯茶会を催したので庭の灯りと満月を両方楽しんでもらいました。あれからもう1年がたちます。

今年も9月23日のお彼岸の中日に開催する予定です。秋の夜長、虫の声でも聞きながら、すこしゆっくりとした時間を楽しんでみませんか。どうぞ誘い合わせて御参加ください。



第35回 主婦の集い

9月15日午前10時より今年も主婦の集いを開催いたします。

9月はいろいろと忙しいと思います。稲刈りもあるし、夏から秋へと変化する時ですから、ご多用のことと思います。9月の15日は敬老の日で、役をされている方はお手伝いで大変だと思います。しかし、忙しい中をやりくりしておまいりください。蓮如上人の『御一代聞き書き』に「仏法は忙しい世間の仕事をさしおいて聞かねばならない。それなのにあなたは、ひまが出来たら聞こうと思ってはいないか。それはあさはかなことである。仏法のうえからいえば、老少不定の身であるから、明日があると思ってはならない。」といわれています。ひまになったら仏法を聞こう、お寺に参ろうといっていたら死ぬまで聞けません、参れません。『仏法はひまをかきて聞くべし』です。誘い合わせてお参りください。

おめでとうございます。



平原東の西本哲夫さんの次男 西本晃弘さんが祐美子さんと6月14日にめでたくご結婚されました。4年ぐらいのお付き合いされたそうです。近くにお住まいですから、これから新しい仲間が増えたことを喜んでいきます。

また、上平原第一の川野博明さんのご長男 川野哲治さんが奈緒美さんと7月13日ご結婚なさいました。

バレーボールが取り持つ縁だそうで、これから仲の良いパスが交換されることと思います。

御礼

永代経懇志 参拾萬円 中川 茂 殿 故 中川 利子様 特別永代経志として

お寺の子供会

3年生 澤田真実子

8月5日 火曜日

ビンゴゲームが早く当たらなかったから、来年も有ってほしいよ。カレーを食べるのがおそくなったけど、全部食べれたし、とってもおいしかったよ。ピニールの工作はネコにしようと思ったのが、失敗してタヌキになってしまいました。こんどいえでつくるときは、もっとねこらしくつくってみたいとおもいました。きゅうけいに男の子と女の子がおりがみのゴミでボールを作ってなげあいこをしていたので、わたしはそのおちたボールをひろって、女の子にわたしたりしました。とてもたのしかったです。らいねんもきたいとおもいます。



お寺にとまった事

6年生 瀬戸浩二郎

ぼくは、今年はじめて、お寺に泊まりました。最初はどんなことをするか、わからなかったけど、昨年泊まった人に、わからないことをいろいろ聞いて、ちょっとずつ慣れていきました。住職さんがおつとめをしている時、正座をして足がガクガクになりました。海田温泉はあまり好きではないので、来年は違うところにしてほしいです。ご飯はとてもおいしかったです。寝る時はこうふんして、2時ごろまで寝ませんでした。二日目は、小島君がいっぱい泣いていました。住職さんやいろいろな人に、感謝しています。いい思い出になりました。



8月4日～5日と今年も小学生の一泊研修会と一日研修会を開催しました。一泊の4年生～6年生が32名と一日の1年生～3年生が39名と今年もたくさんの子供達にぎやかに参加してくれました。しかしこのごろの子供達を見ていると、私が思っている子供達と少し違うのかなと考えさせられました。私は土曜学校の時から、家でも学校でも、あれをしてはだめ、これをしてはだめ、といつも規制ばかりされているので、お寺の本堂ぐらいは何をしてもいいよと全てを許していたのですが、案外何処でも好きなようにさせてもらっているのかもしれない。全く規律が出来ていません。少しこれは考え直さなくてはいけないのかも。 住職



自分を捨てて・・・

秋の訪れが今年は例年に比べて、非常に早いような夏でした。甲子園の高校野球も春夏連覇をねらった広陵高校は早々と敗れ、夏の楽しみが少ない今年でした。プロ野球も広島カーブの成績は一向にかんばしくなく、阪神タイガースの独走を横目で見ている感があります。京都にいた頃、甲子園球場によくカーブの応援に行きました。その頃はカーブが強くて楽しい思いをしていました。阪神ファンの喜びがわかるような気がします。巨人も今年は引き立て役に過ぎないようなところですか。

そんな中で巨人軍の川相昌弘選手というのをご存知ですか。先日8月20日、犠打の世界新記録を樹立しました。送りバントです。彼は岡山南高校から投手として21年前巨人軍に入団しました。高校のときはピッチャーで4番という中心選手でしたが、プロの選手の中に入ると目立たないほうでした。早くから野手に転向をして二塁手として玄人好みするプレーをしてきました。その彼がアメリカ大リーグのエディ・コリンズの持つ512犠打という世界記録を更新したのです。犠牲バントというのは目立たないけれども、野球の試合で勝利するためにはとても大切なプレーです。派手なホームランで打ち勝つというのは目立ちますが、こつこつとバントで次の塁に選手を送るというのは、確実な戦法です。広島野球の原点はこうした地味な戦法でそれが持ち味だったのですが今はすっかり身を潜めているような気がします。巨人というチームはスター選手がそろっている中で、目立たないけれども、いぶし銀のような熟練の技で、それこそこつこつと積み上げて512犠打です。その彼が『それぞれに役目があって、私は他の人を引き立たせる役目、その持ち場で精一杯努力する』とっています。また『ここまでやってこれたのも、廻りのみんなのおかげ、選手や家族に感謝します』とっていました。野球は一人では勝てません。皆がいて、それを支える人がいてこそです。だからこそこんな大記録が生まれたのでしょう。阿弥陀経に赤色赤光・青色青光とあります。それぞれがそれぞれの光で光り輝く。

